地域産業活性化委員会および三重・岐阜地域会員懇談会

地域産業活性化委員会の活動の目的は、地域を支える産業の振興である。活動領域を機能で整理した他の委員会を縦軸とすると、本委員会は地域を対象としたいわば横軸の役割を担う。

三重では上田副会長、岐阜では村瀬副会長が委員長・座長を務め、人材の確保・育成、伝統工芸の振興、観光の振興、社会インフラの整備、イノベーションの創出等、地域が直面している課題を中心に活発な議論が交わされた。参加した地域会員から提議された意見の概要は以下のとおり。

三重開催

日　時：11月6日（火）
場　所：四日市都ホテル
参加者：上田副会長、小川副会長をはじめ20名

会議を進行する上田委員長・座長

人材の確保・育成

- ＵＩＪターン促進のために、若者が戻りたくなる地域の良さのＰＲが必要。
- 少子高齢化でさらに人手が不足する。外国人材の活用を積極的に行えるよう活動して欲しい。
- 若者が将来に夢を持てる教育を教師に期待する。経済界はそのために何ができるかを考えるべき。

伝統工芸の振興

- 伝統工芸そのものを守るのではなく、技術を守り新たなイノベーションにつなげることを目指すべき。
- 伝統工芸の振興には、販売を企画するプロデュース人材や行政の支援が必要。

観光の振興

- 観光地への交通アクセスが悪い。観光資源を生かせるよう改善が必要。
- 観光客が大挙して押し寄せることが地域にとって本当に良いことなのか再考すべき。

社会インフラの整備

- 四日市－津間などは、移動に時間がかかる。交通ネットワークは広域のみならず、県内の都市間の整備も重要。
- 中部国際空港の二本目滑走路の整備に向けて、直行便を増やすなど、空港の魅力や利用価値を向上させることが必要。
- 公共インフラの整備では観光誘客の視点も重要。

（株）ＪＡＣリクルートメントの金光シニアコンサルタント

（企画部　小笠原 慎）

岐阜開催

日　時：11月21日（水）
場　所：岐阜都ホテル
参加者：村瀬副会長、水野副会長、竹中副会長をはじめ19名

伝統工芸の振興

- 伝統工芸の体験を通じて、若者が工芸品に触れる機会が拡大するなど、観光振興が結果的に伝統産業の拡大につながっている。
- 多くの企業が存続している工芸品は何らかの経済的合理性があるはず。それを分析し、強みを生かす取り組みが必要。
- 伝統工芸の後継者を志す若者は少なからず存在するが、生活は厳しく、地域定着に向けた支援策が課題。
- 伝統工芸に観光を織り交ぜ、地域全体の活性化につなげることも一つの方法。
- 販路拡大には営業力が必要であり、コーディネートを行う人材も必要。

●価値が分かるように工夫し、ブランド化することで販路拡大につながる。

観光の振興

●観光は、地域らしさ、地産地消の域内経済循環によって磨かれる。

●観光資源として残すだけでなく、アップデートをすることで面白くなる施設もある。

●広域観光のイメージが掴みづらい。名古屋を中心とした中部圏に分かりやすいキーワードが必要。

イノベーションの創出・人材の育成

●学生ベンチャーが増加している。自らのアイデアに対して産業界などの意見を聞きたがっているため、支援を求める。

岐阜大学の森脇学長

●イノベーション人材育成プログラムの「ビヨンド ザ ボーダー」参加者は非常に良い刺激を受けている。

●学生が地元の優良企業を知らないことが課題。多様な産業・業種でのインターンシップ開催と、学生の受け入れを求める。

（岐阜担当　山崎 豊）

広域連携・地域づくり委員会

日　時：11月7日（水）
場　所：名古屋栄ビル
参加者：委員長の中村（昭）副会長をはじめ24名

本委員会は、2050年頃の社会を展望した「将来を見据えた中部圏のビジョン」の策定に向けた活動を進めている。

今回は2回目の中間案として、前回の委員会で出された「焦点の絞り込みが必要」「中部圏の地域特性を強調することの必要性」「ビジョン策定後の対外発信方法の工夫が必要」などの意見を踏まえた案を提示した。また、今後の社会・産業構造の変化を見据えると中部圏は「ものづくり基盤」を

冒頭挨拶を述べる中村委員長

生かし、生産性の飛躍的な向上と新たな産業が創出される環境を整備し、持続的に発展できる地域づくりを進めることが必要との考えをベースに、ビジョンを実現したまちのイメージ図や実現に向けた仕組みづくりについても触れた。

カネソウ（株）の小林会長

委員からは、「次世代を担う産業の方向性は深掘りが必要」「大きなテーマで重要項目も多いが、さらなる焦点の絞り込みが必要」「中部圏域全体のイメージが湧きやすくなった」「ビジョンの実現にはリーダーシップが必要。組織づくりも必要」など多くの意見が出され、活発な議論が行われた。

今後は、正・副会長会での意見も踏まえ、2月に最終案を審議し、3月度の正・副会長会および総合政策会議に上程する予定である。

（企画部　加治 貴史）

第2回経済委員会

日　時：11月20日（火）
場　所：名古屋栄ビル
参加者：委員長の水野副会長をはじめ32名

今回は、2019年度のテーマ「中小企業の事業存続性の向上」について、検討状況の中間報告と審議を行った。

中村専門委員長（(株)三菱UFJ銀行経営企画部経済調査室上席調査役）および事務局から、アンケートの調査結果（中間集計）の概要、それを踏まえた提言書骨子案の説明を行い、審議に移った。

会議を進行する水野委員長

委員からは、「事業承継問題について、短期的ではなく長期的な政策が必要ではないか」「課題解決には専門的な知識が必要であり、行政等の公的な支援機関とうまく連携するべきではないか」「自社のビジネスにも影響する問題という危機意識を持たせる提言をしてはどうか」など建設的な意見が活発に提起された。

大府商工会議所の下畑専務理事

今後、これらの意見を踏まえて検討を進め、1月に最終案を審議し、2月度の正・副会長会および総合政策会議に上程する予定である。

（調査部　山口 大樹）

産業・技術委員会
ファインセラミックスセンター見学会

日　時：11月27日（火）
場　所：（一財）ファインセラミックスセンター
参加者：26名

ファインセラミックスセンター（ＪＦＣＣ）は、中部の経済界、自治体の協力によりファインセラミックスに関する研究、試験、評価を行う公益法人として1985年に設立された。その後研究領域を拡大して、現在は「材料技術研究所」と「ナノ構造研究所」の2つの研究組織を連携させ、新しい材料の市場導入に向けて世界トップレベルの研究に取り組んでいる。

当日は、ＪＦＣＣ専務理事の吉田盛厚氏による挨拶に続き、ＪＦＣＣの概要と材料計算科学について説明を受けた。その後、研究設備の見学に移り、担当者から機器や研究内容の説明を受け、参加者は理解を深めた。

＜今回見学した設備＞

- **最先端電子顕微鏡評価装置**
- **人工太陽熱利用評価装置**
- **人工股関節の信頼性評価装置**
- **航空機エンジン用コーティング装置**
- **過熱水蒸気処理装置（成形体脱脂・ＣＦＲＰリサイクル応用）**

最先端電子顕微鏡評価装置の説明に熱心に耳を傾ける参加者たち

今回の見学会のアンケートから、参加者の４割がＪＦＣＣの存在を知らなかったことが判明したが、参加者ほぼ全員から「満足・ほぼ満足」「理解できた」の評価を得た。また、「ＪＦＣＣ利活用を検討してみたい」「自社研究の推進に有意義であった」などのコメントも出された。

ＪＦＣＣでは毎年度「ＪＦＣＣ研究成果集」をまとめており、毎年７月頃には「研究成果発表会」を名古屋・東京・大阪で開催している。ＪＦＣＣを世界最先端の材料技術開発・ナノ構造解析の研究機関として認知していただき、利活用をお願いしたい（詳しくはＪＦＣＣホームページ（http://www.jfcc.or.jp/）をご参照下さい）。

ＪＦＣＣホームページから
ダウンロードできます

産業・技術委員会では今後も中部圏における世界最先端の研究施設を紹介しながら、独創的なイノベーションや新たな産業振興につながるヒントを探求していく。

（産業振興部　黒柳 考司）

第41回Next30産学フォーラム

日　時：11月27日（火）
場　所：愛知県立大学 長久手キャンパス
参加者：37名

愛知県立大学次世代ロボット研究所長の村上和人氏からの挨拶の後、岐阜大学地域協学センター助教の後藤誠一氏と愛知県立大学情報科学部講師の鈴木拓央氏による講演、施設見学を行った。

＜講演会＞

後藤氏は、「産業界・学生・大学の相互にメリットが生じるインターンシップの取り組み」をテーマに、岐阜大学で開講しているインターンシップ科目の内容について紹介。インターンを成功させるには、学生は派遣前に企業の事業内容や業界の動向等を調査し理解を深めるとともに、企業側も学生が成果を出せると想定できる自社内の課題を設定することが重要であると訴えた。

鈴木氏は、「ロボットは人型？猫型？家型！？～ロボットの定義に基づいて、ロボットの潜在能力について検討してみよう！～」をテーマに、ロボット研究は、「ヒューマノイド型」から、多種多様なセンサーでネットワークを構築し住人の生活を支援する「環境型」の開発に進んでいると説明。この中で、自身が開発している服薬管理支援システムを紹介し、現状の課題を企業等と連携しながら克服して商品化することで、社会に貢献していきたいと述べた。

＜施設見学＞

次世代ロボット研究所、マルチスクリーンシステム、ドライビングシミュレーターを見学。参加者からは、「充実した研究施設への驚きと学生の研究への取り組み姿勢に感銘するとともに、ロボット等の先端技術に対する関心が高まった」などの意見が相次ぎ、情報科学で新しい未来を拓くための最新の研究内容について理解を深めた。

次世代ロボット研究所を見学する参加者たち

（イノベーション推進部　水田 晴久）

イノベーション人材育成プログラム「ビヨンド ザ ボーダー」第2クールの募集

中経連では、中部圏のイノベーションを活性化するため、2018年度から、イノベーションを実現する人材を育成するプログラム「ビヨンド ザ ボーダー」を開催しています。本プログラムでは、2019年3月開講の第2クールの参加者を募集中です。起業や新規事業開発などイノベーションに関心のある方は、奮ってご参加ください。

プログラムのご案内　https://chukeiren-innovation.com/program/beyond.php

問い合わせ、申し込みは以下までお願いいたします。
E-mail：program2@chukeiren.or.jp　TEL：052-962-8091　担当：イノベーション推進部 片岡